

## 2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：アメリカ ローズmontカレッジ

留学期間：2019年8月～2020年3月

留学中に意欲的に取り組んだことは主に2つある。それは積極的に行動することとタイムマネジメントだ。一言で言うと、アメリカの大学生はすごく勉強をする。日本の大学生の間で、「大学は社会人になるまでもっと遊ぶ時間を稼ぐためにある場所」や、「授業は出席してれば大丈夫でしょ」などの考えを持つ人は少なくないでしょう。しかし、アメリカは大学で自分が選択した学部で学んだ専門知識が将来働く業界が決められるため、学生たちは就活をするために大学に通っていると言う感覚で大学進学を選択する。つまり自分の将来に多く関わるため、逆に勉強をしないことが不思議になる。授業は語学力関係なく、予習をしないとついていけないし、授業時間内の提出課題や行われるディスカッションもこなせない。数字で表したら、一般的な日本の大学生よりは3から4倍勉強する時間が多い。とは言って、全く遊んでいないわけでは無い。プライベートやソーシャルライフも重視している。なのに学業が成り立っているのは、勉強とプライベートのオンとオフが分けられているタイムマネジメントをしているからだ。

私は、交換留学に行く前は、プライベートの遊びやアルバイトに偏り、課外で勉強をする習慣は全くなかったし、授業を受ける時も積極性が欠けていたし、試験勉強も直前にすることばかりだった。そんな私は、最初は当然授業について行くのも精一杯だったし、発言や質問さえもできなかった。留学先では、発言をしないと教授に学ぶ意欲がないと思われ、成績に悪影響を与える。さらに、周りの学生には存在が薄く感じられ、英語ができるできないとか関係なく、普段の授業やディスカッション・ディベートに貢献しないと、「何にもわからないじゃん」と思われ、見下されることも経験した。周りの学ぶ姿勢や積極性に刺激された部分もあるが、見返したいという気持ちもあった。この状況を逆転させるにはソーシャルの誘いに紛らわされないよう、必ず勉強をする時間を作ることを意識していた。例えば、私の場合、平日は必ず放課後一時間くらい休んだら、復習と予習を夕食時間までし、友達付き合いは夕食時と夕食後にするなど、時間のマネジメントをしていた。成績に関しての対策はアカデミックアドバイザーと頻繁に対面でも、メールでも良いので、自分の勉強状況、授業での悩みやテスト対策などを相談するようにしていた。なおかつ、授業では間違えることを恐れず、積極的に授業での発言量を増やし、グループワークするときはグループが決まって、グループメンバーと着席した瞬間から絶対に一番目に意見と方向性を話すように心がけていた。成果としては、成績向上以外にも、周りから認められ、グループワークをするときにはリーダーの役割を任せられたり、普段声をかけられることも多くなったり、コネクションを増やすことができた。そのおかげで多くの国籍や文化背景、思考を持つ学生たちと交流することができ、様々な価値観に触れることができたので、留学を通して視野はだいぶ広がった。